

松は開拓者 パイオニア

僕は、学生時代教員時代『松』と称していた（ニックネーム）。そのせいか「松」にはじゃっかんの思い入れがある。

松くい虫と松枯れの関係を調査してわかったことがある。枯れた松を調べると松くい虫（カミキリムシの幼虫に寄生する微小なせん虫）にやられている。しかし不思議なことに、松くい虫にやられたという松のそばの広葉樹は元気なのだ。

松は砂地や岩肌でも生きる力がある。だから荒れ果てた地に最初に根を張るのは松だったという。かつて今の平成新山のような溶岩円頂丘（溶岩ドーム）だった眉山に最初に根を張ったのは松だったと思われる。

松林の足元には陰が出来、落ち葉は堆肥となり下草が生え、雑木が育ち広葉樹が雑木林を作る。そうすると今度は広葉樹たちに養分を奪われ、松は役割りを終え枯れていくのである。松がパイオニア植物と呼ばれる所以である。その松を土に返す役割を松くい虫が担っているというのである。

であれば、そもそも私たちは松を救わなければならないのか？

人間が住むようになった地球はあらゆる場所で生態系バランスが崩れ、食物連鎖が切れかかっている。人間は人工をもってしても自然を守る責務が出てきた。はたして松林は守るべき自然なのか？松くい虫を殺すための薬品は他の生物を殺さないのか。ミツバチは大丈夫か。薬剤は地下に浸透して地下水に影響はないのか。『沈黙の春』を招来することに成りはしないか？

杞憂に終わればいいのだが、レイチェルカーソン松は、少し心配しているのだ。

※松坂は、農薬による環境破壊に警鐘を鳴らす『沈黙の春』を著したレイチェル・カーソンにあやかりたいと思っている。

■眉山中腹異変は松枯れ

9月にはいって眉山の中腹が赤くなっている。トンネルのせいで地下水に異変があったのでは……など不安を抱く市民が多いので、現状報告をしておきたい。

眉山異変の原因は「松くい虫被害による松枯れの可能性が高い」とのこと。森林管理所職員や、島原市職員も現場検証した所、枯れているのは松に限定されていて、他の植栽には及んでいないとのこと。枯れている松は、松くい虫被害の症状を呈していたとのこと。

以下憶測レベルだが。例年5月ごろに、リモコンヘリコプターによる松くい虫防除の薬剤散布がなされていたのだが、今年は薬剤散布を実施していなかったとのこと。その結果、松くい虫被害が拡大したのかもしれない。当然、猛暑の影響、トンネル工事の影響も全くないとは言えないかもしれないが、現在のところ、松くい虫による松枯れ説が最有力と思われる。

トンネルの影響を心配なさる市民の方が、9/14付島原新聞投書欄に、早速心配を投げ込んでおられた。トンネルのせいで、山の保水力などが低下あるいは地下水の流れに変化など色々考えると、一番心配なのは眉山の崩壊である。市民の心配は分かる。

しかし、無用の心配はともするとパニックをひこ起こす。新聞は、事実報道を旨としなければならない。この時困るのが「投書」である。投書は一意見でしかないのは前提だが、新聞に掲載されると、「事実」のように受け取られる落とし穴がある。

実際島原市の職員は、縦割り行政の壁を越えて（眉山は国の守備範囲といえども）現場に足を踏み込んでいるのだから、「とりあえず心配に及ばない」情報は、もっと積極的に発信して欲しかった。先手先手で情報は発信しなければならない。「情報発信」は大事である。